

登録コード	EKG11600	開講年度	2026			
授業科目	特別支援教育課題特別研究				担当教員	奥村 真衣子 他
英文授業名	Special Study in Special Needs Education				副担当	上村 恵津子・戸谷 健史・楠見 友輔・下山 真衣・宮地 弘一郎
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	履修学年
講義室			授業形態	演習	備考	2年
信大コンピテンシー	非該当					
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】				【授業の達成目標】	
	2 6 E A カリ, 2 5 E A カリ, 2 4 E A カリ					
	教育の専門職としての学識・技能				特別支援教育の研究者として必要な学識と技能を身につける	
	教育現場の諸課題の背景にある関係構築に気づく視点				特別支援教育現場の諸課題の背景にある関係構築に気づく視点 を身につける	
	2 4 E A カリ					
(2)授業の概要	既存の枠組みを超える柔軟な発想力と深い省察力				特別支援教育の研究を自ら展開した発展させるための、既存 の枠組みを超える柔軟な発想力と深い省察力を身につける	
	「特別支援教育課題特別研究」で検討した内容を発展させ、各自の関心及び特別支援教育領域上の課題に基づきテーマを設定（問いを立てる）し、研究テーマに造詣の深い教員（複数の）の支援を受けながら、実態把握、教材分析、情報収集、文献解釈、調査方法・データ分析法を駆使しながら研究を行い、最終的に研究論文としてまとめる。資料を比較して利用したり、一貫した議論を組み立てたりすることで、未知の知識を作り出していく学習を行う。研究室内での討議の他に、合同での論文構想発表会や報告会を行い、より多角的な視野から研究を進められるようにする。また、各自の研究課題に合わせて特別支援学校での実務経験のある教員による指導も受ける。 本科目を通して次のことを習得する。特別支援学校、特別支援学級における校内研究の中心となると共に、地域の研究会等でも活躍し、地域の研究全体の下上げに寄与できるための、応用的な研究手法と妥当性の高い成果発表の方法を学ぶ。本科目では特に、研究成果をまとめる方法論を学ぶ。 自らの課題・研究領域における実践研究の遂行と論文執筆体験（自ら問いを立て、証拠を集め、論理を組み立てて、答えを示し、相手を説得するプロセスの経験）を通して、科学的思考と客観的事実に裏付けられた教育開発（カリキュラムや授業方法を自らデザイン、検証、改善）ができるようになる。 同僚や研究者に向けて書く・報告する、コメントを受けて応答する、議論することを通し、信念や心情ではなく、検証可能な事実にもとづいて、根拠のある発言をし、知見を互いに高めあう（かみ合う）議論ができるようになる。					
(3)授業計画	授業は、個々の受講生の主体的探求にもとづいておこなわれるものであり、研究テーマや進捗状況に沿って支援・指導は行われる。本演習は、研究テーマの設定、研究手法の決定、研究の遂行、研究論文の執筆方法解説、研究論文の執筆、研究論文の発表とそれにもとづく討論、の各過程からなる。特別支援教育課題特別研究は、～、特別支援教育課題特別研究は～を行う。ただし、研究は研究領域・対象に応じて多様で、リニアーに進行するものではなく、現場やフィールドとの絶えざる往復が必要。以下はあくまで一つの流れを示した例示に過ぎない。 第1回：データを整理する 第2回：データを分析する 第3回：分析結果の吟味 第4回：学術（実践）論文の構成（目次：全体の構造） 第5回：論文の執筆作業と点検（問題設定） 第6回：論文の執筆作業と点検（先行研究の整理） 第7回：論文の執筆作業と点検（分析方法と結果） 第8回：論文の執筆作業と点検（結論と考察） 第9回：論文の執筆作業と点検（引用・参考文献・資料等も含め全体の吟味） 第10回：論文の推敲 第11回：論文の完成 第12回：口頭報告の準備（資料作成） 第13回：口頭報告の準備（予備練習） 第14回：口頭報告会（口頭試験）					
(4)成績評価の方法	各回の取り組み・発表（30％）、研究計画の内容（50％）、研究計画のプレゼンテーション及び質疑応答（20％）、によって評価する。評価割合は、若干の調整を行うことがある。 ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀, 89-80％ 優, 79-70％ 良, 69-60％ 可, 59％以下 不可					
(5)履修上の注意	・原則として「特別支援教育課題特別研究」を履修済みであること。 ・内容によって、授業日程や開催場所を変更することがある。 ・履修に当たっては、自らの研究課題を考慮し、指導教員と相談の上で決定すること。 ・自ら課題を設定し、主体的に研究を進めること。わからないことがあれば質問をする。各自、研究テーマに関連した文献等を国際的な動向を含めて図書館などで検索・収集すること。他の受講者が発表する際には、積極的に意見を述べて討論すること。					
(6)質問,相談への対応および連絡先	オフィスアワー：担当教員への質問・連絡方法は、各自担当教員と相談して決定すること。					
(7)成績評価の基準	以下の（ ）から（ ）のすべてを満たしていれば、「卓越している」。4項目を満たしていれば「かなり上にある」。3項目までできていれば「やや上にある」。2項目までできていれば「水準にある」。					

(7)成績評価の基準	」。 ()問題の設定(自らの研究関心に依拠し、新規性・有用性のある問い)が適切である ()問題の背景の説明, 先行研究との関連づけ・位置づけが的確である ()課題が明確であり, かつ, 課題に対する解決策(研究方法: データ収集・分析, フィールド, 文献の扱い方など)が適切である ()主張・見解が独創的で, 説得力あるかたちで論証(論旨の明快さ, 形式, 研究倫理)できている ()報告会でプレゼン, 質疑応答が適切にできている
(8)事前事後学習の内容について	それぞれの授業で行うことの準備と修正作業を主体的に行うこと。研究テーマは事前に考えておく。修正点を指摘されれば, 自ら問題を解決し修正してくる。調査方法や先行研究など, 関連した文献等を, 国際的な動向を踏まえて図書館などで検索・収集し, 内容を整理し報告する。研究計画書を作成する。この授業は90時間の学習を必要とする内容です。従って, 60時間以上の時間外学習が必要となります。
【教科書】	指定しない。
【参考書】	適宜紹介する。